本校のホームページでは、学園の情報を中心に、生き生きとした生徒の表情をとおして学園生活の様子を紹介しております。ぜひご覧ください。
https://www.meinaka.jp/

学　園　生　活

中学２年移動教室

明治大学付属中野中学・高等学校

NAKANO JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL ATTACHED TO MEIJI UNIVERSITY

明治大学付属中野中学・高等学校
学校長のあいさつ

本校には「質実剛毅」、「協同自治」、「修学錬身」という校訓があります。これを日々、生活の中で具体的に実践するため、「みんなで仲良く、正直に、真面目に、精一杯努力しよう」を学園の合言葉にしています。この合言葉を実践するため、コミュニケーションの基本である挨拶の励行に努めていますし、時間厳守や身だしなみのルールやマナーも大切にしています。精一杯努力するとは、自分で限界を決めないということです。中学・高校時代は、自らの将来像を明確にしていく時期なので、その時点で苦手科目をつくると自らの可能性を狭めてしまいます。ですから、全ての授業科目に真剣に取り組まなければいけません。真剣に授業に臨むことが精一杯の第一歩です。まずは、これが明大中野での生活の基本です。

人生百年と言われる時代ですが、この明大中野で過ごす3年間、6年間は、心と身体が著しく成長し、主体的に自分の生き方や将来を考えるようになる時期です。そのため、本校で豊富な体験活動を通して自分を見つめ、視野を広げながら将来のキャリアを考える必要があります。明治大学の付属校としての特長である、受験に縛られることのない、心と時間の余裕を充分に活用し、クラブ活動をはじめとする様々な活動にチャレンジしながら、進路を考えることができます。

中学1年では入学後すぐに、教師・友人との親睦を目的として「学年旅行」を実施しています。また、中学1年・2年、高校1年では、長野県原村にある本校施設「岳明寮」で、大自然の下、移動教室が行われ、中学3年と高校2年では「修学旅行」が行われます。これ以外にも学年に応じて、「校外学習」、「職業体験」、「教科見学会」、「進路セミナー」等の行事が行われ、数々の体験活動を通して社会を知る機会を豊富に用意しています。

また、学習では、特に中学での先取り学習は行っていません。先を急がずに、じっくりと深く掘り下げることで、自分のやりたいことが見えた時に飛躍するための土台となる力を培うことに重点を置いて教育を進めています。ですから、中学のみならず高校でも、生徒たちが学力を補充したいと思うニーズに応じて、放課後や長期休暇には数多くの講習を開講して、学力向上に努めています。

そして、大学との連携という点では、高校1年で「特別進学講座」を開き、明治大学10学部の学部長が各学部の教育内容を詳しく説明してくれますし、高校2年では「農学部・理工学部見学会」、高校3年では「明治大学公開授業」等があります。また、中学・高校全学年の希望者を対象として「明治大学理工学部連携プログラム」で理科の実験や特別授業などを行い、高校生を対象に「総合数理学部サマーセミナー」でプログラミングなどの実習を行っています。この他にも様々な明治大学と連携したプログラムが行われ、生徒たちの進路決定に向けて大きな役割を果たしています。

グローバル化が進んでいる世界情勢を鑑みて、4技能が求められている英語教育が必要となることにも、しっかりと対応していかなければいけません。2018年度より、高校1年の英語の授業で、ネイティブスピーカーとのオンライン英会話の授業を実施しています。好結果が得られたため、2019年度から高校2年でも実施することになりました。また、積極的に海外に目を向けることができるよう、春休みに希望者を対象として、中学3年での異文化体験・交流を目的とした「ニュージーランド語学研修」、そして夏休みにキャリア教育として高校での「アメリカ研修」を実施し、さらに2020年度からは、3か月にわたるカナダでの「ターム（短期）留学」も始まります。

このように学習を中心として、様々な活動に挑戦しながら、明大中野での3年間あるいは6年間で、「なりたい自分」を目指してください。

学校長 大渡 正士

中学修学旅行

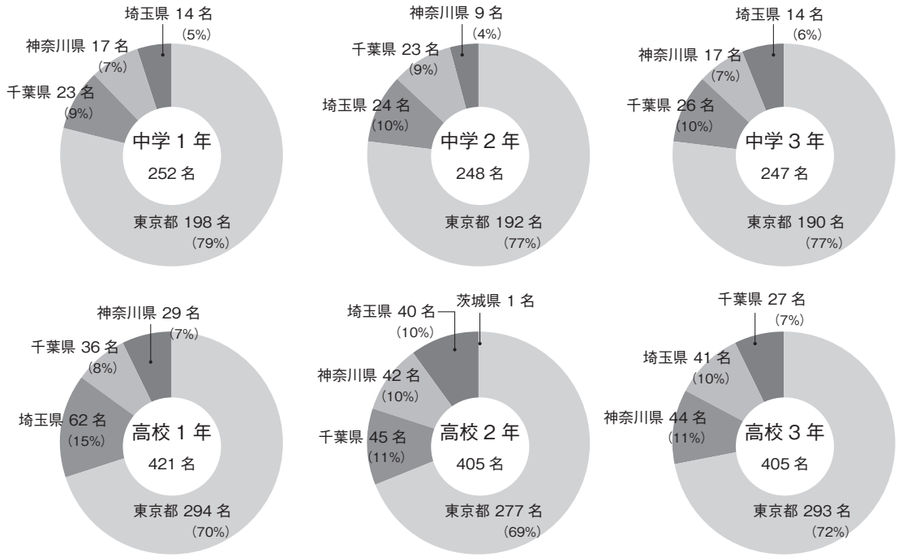
高校修学旅行

目 CONTENTS 次

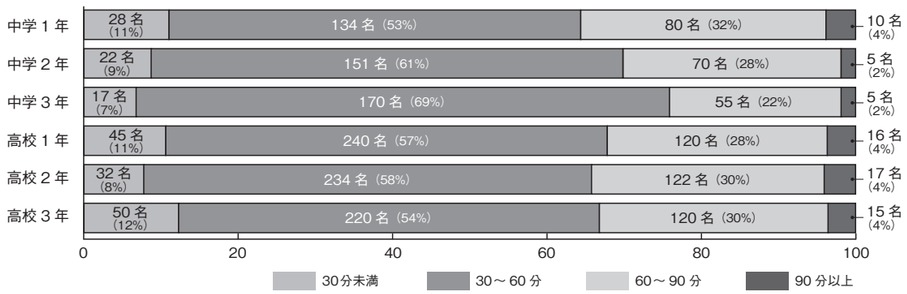
明治大学付属中野中学・高等学校学校長のあいさつ
01 通学情報／生徒会クラブ入部状況（2019年度）
03 校外施設使用クラブ一覧／学校行事一覧（2019年度）
05 平常講習一覧（2019年度）
07 夏期講習一覧／学園の生活指導（2019年度）
09 行事関係の生徒感想文
「学年旅行」を振り返って（中学1年）／「移動教室 」を振り返って（中学1年）
「教科見学会」を振り返って（中学1年）／「校外学習」を振り返って（中学2年）
11 「教科見学会」を振り返って（中学2年）／「職業体験」を振り返って（中学2年）
「校外学習」を振り返って（中学3年）／「修学旅行」を振り返って（中学3年）
13 「東京六大学野球応援」を振り返って（高校1年）
「移動教室」を振り返って（高校1年）／「体験型英語学習」を振り返って（高校1年）
15 「明治大学特別進学講座」を受講して（高校1年）／
「修学旅行」を振り返って（高校2年）
17 「進路セミナー 」に参加して（高校2年）／「福島被災地研修」に参加して（高校2年）
「明治大学農学部・理工学部見学会」に参加して（高校2年）
19 「明治大学公開授業」を受講して（高校3年）／
「ニュージーランド語学研修」に参加して（中学3年）
21 「アメリカ研修」に参加して（高校2年）／スキー・スノーボード講習」に参加して（中学1年）
「生徒会活動」を振り返って（高校2年）
23 保護者からのメッセージ
25 卒業生からのメッセージ

通学情報（2019年度）

◎生徒居住区



◎通学時間



◎授業時間帯

SHR	8：20～ 8：40
1時限	8：45～ 9：35
2時限	9：45～ 9：35
3時限	10：45～11：35
4時限	11：45～12：35
昼休み	12：35～13：15
5時限	13：15～14：05
6時限	14：15～15：05
SHR	15：05～

※下校については、学年ごとに時差をつけています。

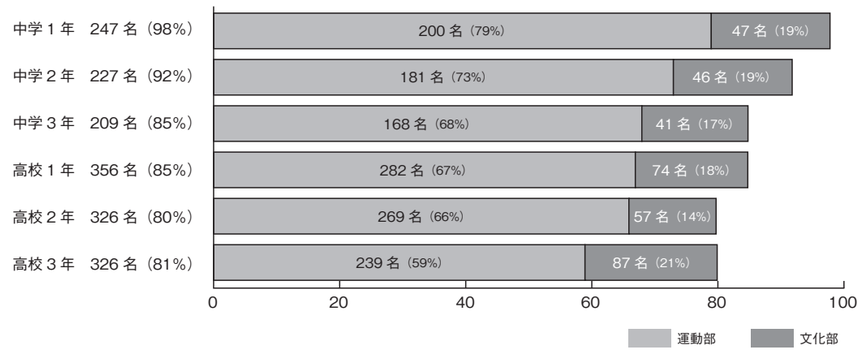
- 月曜日は、5時間授業です。
- 火・水・木・金曜日は、6時間授業です。
- 土曜日は、4時間授業です。

【食堂の利用について】

食堂は「共用棟」内にあり、高校生は毎日利用できますが、中学生は土曜日放課後のみの利用です。中学棟ではパンやおにぎりの軽食を販売していますが販売数が限られるため、できるだけ各自で昼食を持参してください。なお、中学生・高校生ともに当日のお弁当の予約を行っています。飲料は中学棟・高校棟ともに自動販売機で購入できます。

生徒会クラブ入部状況（2019年度）

◎クラブ入部者数



◎運動部（19クラブ）

クラブ	中１	中２	中３	高１	高２	高３	クラブ		中１	中２	中３	高１	高２	高３
アーチェリー	5	0	5	8	8	17	卓　球		5	18	19	20	10	5
剣　道	3	2	3	7	7	8	庭　球	軟式	34	24	18	13	12	1
ゴルフ	13	10	12	23	22	15		硬式	－	－	－	30	41	62
サッカー	31	27	14	27	20	24	バスケットボール		24	19	20	17	13	20
山　岳	3	0	1	21	17	7	バドミントン		2	7	4	13	8	4
射　撃	7	4	6	4	11	8	バレーボール		7	11	7	7	5	3
柔　道	3	1	2	5	7	7	野　球		20	18	18	22	21	19
水　泳（水球）	16	11	11	13	14	5	ラグビー		12	9	19	16	17	12
スキー	6	2	2	12	12	1	陸　上		7	4	6	8	10	7
スケート（アイスホッケー）	2	13	0	15	13	13								
相　撲	0	1	1	1	1	1	小計		200	181	168	282	269	239

◎文化部（16クラブ）

クラブ	中１	中２	中３	高１	高２	高３	クラブ	中１	中２	中３	高１	高２	高３
英　語	0	0	0	1	2	1	生　物	1	2	7	1	0	0
演　劇	0	3	0	0	0	0	地　学	4	1	6	5	3	2
音　楽	9	16	9	18	19	27	地　理	7	6	3	8	3	4
棋　道	3	3	3	3	8	0	美　術	2	1	0	1	3	3
コンピュータ	5	10	4	9	10	10	文　芸	0	0	0	3	3	2
史　学	5	0	1	1	0	2	放　送	0	0	0	2	0	3
写真映画	5	1	4	7	0	12	理　化	5	1	3	13	2	18
新　聞	0	0	0	0	4	0							
数　学	1	2	1	2	0	3	小計	47	46	41	74	57	87

※ 中学の運動部の活動は、生徒の身体的発達を考え、高校生とは練習時間を違えて、無理のないように実施しています。

校外施設使用クラブ一覧（2019年度）

クラブ	施設名（最寄り駅）	曜日・時間	内容
アーチェリー	新宿スポーツセンター（JR・西武・地下鉄：高田馬場） 中央区総合スポーツセンター（地下鉄：浜町） 明治大学八幡山グラウンド（京王：八幡山）	不定期（放課後～19:00）	実射練習
ゴルフ	西荻ゴルフセンター（JR：西荻窪）	水・金（放課後～18:30）	打球練習
サッカー（高校）	明治大学八幡山グラウンド（京王：八幡山） 私学事業団総合運動場（JR：新小岩）	不定期（16:30～18:30）	練習
山岳	明治大学和泉キャンパス体育館クライミングウォール（京王：明大前） 東久留米スポーツセンター（西武：東久留米） ROCKLANDS（地下鉄：葛西） エナジークライミングゼミ（JR・西武・地下鉄：高田馬場）	不定期（放課後～18:00）	練習
柔道	明治大学道場（JR・地下鉄：御茶ノ水） 講道館（JR：水道橋、地下鉄：春日、後楽園）	不定期（放課後～19:00）	技術練習、 昇段試験
スケート	シチズンスケートリンク（JR・西武・地下鉄：高田馬場） 東大和スケートリンク（西武：東大和市） 東京近郊リンク	木（19:00～22:00） 不定期（月2～3回程度） 不定期	氷上練習、 練習試合
庭球（軟式）	中野区立上高田運動施設庭球場（西武：新井薬師前） 中野区立哲学堂運動施設庭球場（西武：新井薬師前）	月～土（放課後～19:00）	技術練習、 試合
庭球（硬式）	都立光が丘公園テニスコート（地下鉄：光が丘） 都立舎人テニスコート（舎人ライナー：舎人公園）	月・水・木 （放課後～19:00）	
バドミントン	中野区立桃園第二小学校体育館（徒歩5分） その他、東京23区内外のスポーツ施設	不定期（放課後～19:00）	技術練習
野球（中学）	中野区立上高田運動施設野球場（西武：新井薬師前） 中野区立哲学堂運動施設野球場（西武：新井薬師前）	月～土（放課後～19:00）	打撃・ 守備練習
野球（高校）	中野学園南野グラウンド （京王・小田急・多摩モノレール：多摩センター）	月・水・金・土 （放課後～19:00） 日・祝（8:00～19:00）	打撃・ 守備練習、 試合
ラグビー	明治大学八幡山グラウンド（京王：八幡山）	月・水・木・土 （放課後～18:30） 日（9:00～13:00）	技術練習、 試合
陸上	明治大学八幡山グラウンド（京王：八幡山）	月・水・土 （放課後～18:30）	練習

学校行事一覧（2019年度）

実施時期	行　事	中1	中2	中3	高1	高2	高3
4月	中学・高校入学式	○			○		
	中学・高校生徒会長選挙	○	○	○	○	○	○
	クラブ部員募集	○			○		
	明大推薦テスト						○
	学年旅行（静岡・山梨、1泊2日）	○					
	校外学習			○			
5月	新体力テスト（私学事業団総合運動場）	○	○	○	○	○	
	進学講演会						○
	1学期中間評価	○	○	○	○	○	○
	校外学習		○				
6月	明大公開授業（明大駿河台・和泉・生田・中野キャンパス）						○
7月	1学期期末評価	○	○	○	○	○	○
	高校推薦テスト			○			
	進路セミナー					○	
夏期休暇中	夏期講習、親子面接	○	○	○	○	○	○
	移動教室（長野、中1は2泊3日、中2・高1は3泊4日）	○	○		○		
	海外研修（アメリカ、14日間）					○	○
	東北被災地研修（南三陸町・大崎市・仙台市、2泊3日）			○	○		
9月	桜山祭　文化の部	○	○	○	○	○	○
	桜山祭　体育の部（私学事業団総合運動場）	○	○	○	○	○	○
10月	明大推薦テスト						○
	2学期中間評価	○	○	○	○	○	○
	中学修学旅行（奈良・京都、4泊5日）			○			
	高校修学旅行（沖縄、4泊5日）					○	
	教科見学会	○	○				
11月	安全教育（防災）	○	○	○	○	○	
	明大農学部・理工学部見学会（明大生田キャンパス）					○	
	明大特別進学講座（明大駿河台キャンパス）				○		
	高校推薦テスト			○			
	学年末評価						○
12月	2学期期末評価	○	○	○	○	○	
	進路セミナー				○		
冬期休暇中	スキー・スノーボード講習（北志賀、3泊4日）	○	○	○	○	○	○
1月	明大面接（付属高校からの推薦入学者対象）						○
	明大推薦テスト					○	
2月	職業体験		○				
	校外学習				○		
	学年末評価			○			
3月	高校卒業式						○
	学年末評価	○	○		○	○	
	中学卒業式			○			
	海外語学研修（ニュージーランド、10泊11日）			○			

※8月海外研修・東北被災地研修、12月スキー・スノーボード講習、3月海外語学研修は希望者参加です。

中学　平常講習一覧（2019年度）

	中学１年	中学２年	中学３年
国　語	①② 読解問題演習	①② 読解問題演習	① 読解問題演習 ② 文法問題演習
数　学		① 問題演習（基礎） ② 問題演習（標準）	①② 問題演習（基礎） ③ 問題演習（基礎～標準） ④ 問題演習（応用）
英　語	① 問題演習（英文法） ② 英検対策 ③ 学力テスト対策	① 問題演習（基礎） ② 問題演習（標準）	① 問題演習（基礎） ② 問題演習（標準） ③④ 英検対策 ⑤ オンライン英会話
理　科	① 実験		① 問題演習
美　術	［中１～高３の全学年対象］ ① 石膏像を中心とした木炭デッサン		
情　報	［中１～中３の全学年対象］ ① プログラミング		
講座数	8	8	14

＊講習は無料で実施しています。ただし、テキスト代などの教材費がかかるものもあります。
＊講習は、放課後（一部は早朝7：00頃から）に開講しています。
＊定期評価などでの成績不振者に対しては指名講習も実施し、再テストなどで到達度を確認しています。

高校　平常講習一覧（2019年度）

	高校１年	高校２年	高校３年
国　語	① 読解問題演習［現代文］ ② 読解問題演習［古典］	① 読解問題演習［現代文］ ② 読解問題演習［古典］	① 読解問題演習［古典］
数　学	① 問題演習（基礎～標準） ② 問題演習（標準～応用）	① 問題演習（基礎） ② 問題演習（基礎～標準） ③④ 問題演習（標準） ⑤ 問題演習（応用）	① 問題演習（標準～応用）
英　語	［ネイティブ講師等により、高校全学年対象］ ① Graded Readers を使って英文多読をし、内容について英会話をする。 ② オンライン英会話		
	③ 問題演習（基礎～標準） ④ 問題演習（応用） ⑤ 英検対策	③ 4 技能（リスニング、スピーキング） ④ 英検対策	③ 問題演習（基礎） ④ 問題演習（標準） ⑤ 英検対策
社　会			① 問題演習［地理］ ② 問題演習［倫理］
理　科		① 問題演習［物理］ ② 問題演習［化学］	① 問題演習［化学］
美　術	［中１～高３の全学年対象］① 石膏像を中心とした木炭デッサン		
他		① 剣道（昇段のための実技・形） ② 柔道（昇段のための実技・形）	① 簿記演習（2 級対策）
講座数	10	16	12

＊講習は無料で実施しています。ただし、テキスト代などの教材費がかかるものもあります。
＊講習は、放課後（一部は早朝7：00頃から）に開講しています。
＊定期評価などでの成績不振者に対しては指名講習も実施し、再テストなどで到達度を確認しています。
＊上記以外にも、語学基礎講座（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）や簿記講座も開講しています。

中学・高校　夏期講習一覧（2019年度）

◎中学

	中学１年	中学２年	中学３年
国　語	①② 文法問題演習	①② 読解問題演習	① 問題演習（基礎） ② 長文読解問題演習 ③ 俳句
数　学	① 問題演習	① 問題演習（基礎） ② 問題演習（標準）	①② 問題演習（基礎） ③ 問題演習（標準～応用）
英　語	① 問題演習（基礎） ②③④ 問題演習（標準） ⑤⑥ 英検対策 ⑦ オンライン英会話	① 問題演習（基礎） ②③ 英検対策 ④ オンライン英会話	① 問題演習（基礎） ②③ 問題演習（標準） ④⑤ 問題演習（応用） ⑥⑦ 英検対策 ⑧ オンライン英会話
理　科	① 実験		①② 実験
講座数	11	8	16

◎高校

	高校１年	高校２年	高校３年
国　語	① 問題演習［古典］	① 読解問題演習［現代文］ ② 読解問題演習［古典］	①② 読解問題演習［古典］
数　学	① 問題演習	①② 問題演習（基礎） ③④ 問題演習（標準） ⑤⑥ 問題演習（応用）	① 問題演習
英　語	① 問題演習（基礎） ② 問題演習（標準～応用）	① 問題演習 ② 英文法 ③ 英検対策 ④ オンライン英会話	① 問題演習（基礎） ②③ 問題演習（標準） ④ 英文法 ⑤ TOEIC 対策 ⑥ オンライン英会話
社　会			① 問題演習［倫理］
理　科		① 実験・問題演習［物理］ ② 実験・問題演習［化学］ ③ 実験［生物］	① 実験・問題演習［化学］ ② 実験・問題演習［生物］
講座数	4	15	12

学園の生活指導

［服装などについての細則］

本校生徒の服装については、この細則に基づいて、
華美に流れることなく、常に清潔で質素であることを心がけること。
なお、本校規程の服装は、本校売店で販売しているものである。

1.冬期服装

○黒サージ詰襟（ラウンドカラータイプの白カラーつき）、
　同ズボン（裾は折り返し型）。黒の革ベルトを使用する。
○ボタンは、制定のものをつける。
○制服内に着用するシャツは、白無地不透明のレギュラーカラーの長袖Ｙシャツとする。
○色・柄つきのＴシャツを着用してはならない。
○セーターを着用する場合は、本校指定（校章入り）の黒・紺・グレーの無地のものとする。
○マフラーは着用しない。
○コート着用の場合は、異装願を提出する。コートの色は、黒・紺・グレーとする。

2.夏期服装

○本校指定（校章入り）の半袖Ｙシャツまたは長袖Ｙシャツ。
　霜降りサージのズボン（裾は折り返し型）。
○その他、冬期服装に準じる。

3.靴

○中学生・高校生ともに紐付き黒革短靴とする。ただし中学生は黒色スニーカー、
　高校生は黒革ローファーも可（いずれも本校指定の靴）。
○校舎内の履き物は、学年別の指定の上履きを使用する。
○体育授業時は指定の運動靴（屋外・屋内用の２種類）を使用する。

4.靴下

○黒または白色のものを使用する。
○体育時は白色のものを使用する。

5.鞄

○本校指定の鞄を使用する。

6.髪型

○学園生徒にふさわしい清潔な髪型とする。
○ネックラインが出る。短めの整髪を基本とする。
○額両上を剃り上げたり、パーマなどをかけることは
　認めない。また、髪を変色させてはならない。

7.所持品

○授業やクラブ活動に必要のない遊具などを持参してはならない。
　なお、携帯電話の持参は許可制とする。

行事関係の生徒感想文

「学年旅行」を振り返って（中学１年）

中学1年　佐藤 光翼

僕たち中学１年生は、４月19日･20日の２日間にわたり、学年旅行に行きました。入学して早々の学年行事だったため、不安な気持ちであふれていました。また、班長･室長など、自分の役割を果たさなければ、という使命感もありました。反面、クラスの人や同学年の人と仲良くなれるチャンスという意味で、とても楽しみでもありました。

僕がこの二日間で一番印象に残っているのは、学習施設として見学に行った「登呂遺跡」です。その理由は、先人の知恵が素晴らしく「なぜ？　どうして？」というところがたくさんあり、ワクワク感が止まらなかったからです。例えば、「竪穴式住居」は、地面が水浸しにならないように粘土で作られていたそうです。「今の時代では何とも思いませんが、それが約2400年前、つまり弥生時代からあるのですよ。もしかしたら粘土というものが知られていないかもしれないという時代に、こんな知恵をどこから？」などと思い、興味がわくのです。また、火おこしでも同じようなことがありました。今ではライターやマッチなどの道具があり、簡単に火をおこすことができます。しかし、当然、弥生時代にはそのようなものはなく、当時の人は木と木の摩擦で火をおこしていたと言われています。この話の「？」は、「なぜ、木と木を摩擦させると火がおこせるということが分かったのか？」です。「太古の昔に、そのような高度な知識を持った人がいたのか？　だったら、どうしてその人は分かったのか？…」というふうに興味が深まってきます。

自分の役割である班長の仕事としては、班のメンバーとはぐれたり、点呼の際に委員長に人数を報告し忘れたりなどしてしまったので、いくつか反省点はありますが、最終的に全員が無事に行動できたのでよかったです。二日間という、あっという間の学年旅行でしたが、クラスの人と話したり、遊んだり、食事をしたりすることを通して、親睦を深めることができました。この学年旅行でできた友人との仲を壊すことなく、努力を重ね、バスの中から見た富士山のように高い目標を持って、これからの中学校生活を送りたいと思います。

「移動教室」を振り返って（中学１年）

中学1年　青木 海依斗

私は、岳明寮での３日間の移動教室で、とくに印象に残ったことがあります。それは、八ヶ岳中央農業実践大学校での農林体験です。私は､養鶏のワークショップを選びました。養鶏は湯浅さんという方が指導してくださいました。最初に､活動の流れを説明していただき､その後､つなぎ･マスク･帽子・軍手・長靴を身につけ、人間の菌が鶏舎に入らないようにしました。そして、鶏舎に行き、中の鶏たちを観察しました。鶏はおとなしくしていましたが、非常に数が多いことに驚かされました。その後、白い鶏が雄で、茶色い鶏が雌で、ここにいる鶏たちは少しの雄鶏を除いて、あと少しで総入れ替えになってしまうと聞かされました。理由は、卵を産めなくなった鶏たちを生活させていると、餌代などの費用がかさみ、無駄なお金を使ってしまうからだそうです。私は、経営者側からすれば損をするのでどうしても生かしてはあげられないけれども、鶏側からしたら、野生で生きていればもっと長く生きられるのに、人間の都合によって早く殺されてしまうことになり、かわいそうだと思い、複雑な関係であると思いました。

次に、卵集めをして、最後に鶏と遊びました。鶏の卵は鶏の体温が高いため、とても温かいことを初めて知りました。他にも、アローカナという鶏は、通常の白ではなく青色の卵を産むことや、双子の卵があることも知りました。雄鶏や雌鶏を捕まえ、手や頭にのせて遊んだりもしました。雄鶏の動きがとくに素早く、捕まえるのが難しかったですが、捕まえて頭に乗せられたので嬉しかったです。しかし、これほど多くの鶏がもうすぐ殺されてしまうのかと思うと、胸が痛くなりました。

私はこの農林体験を通して、いつも何気なく食べている食事がたくさんの命によって支えられているのだと感じることができ、本当に貴重な体験となりました。

「教科見学会」を振り返って（中学１年）

中学1年　門真 現太

私たちは中学２年生といっしょに武蔵野音楽大学での音楽鑑賞会に行きました。私は、とくにオーケストラの「新世界より」の演奏を楽しみにしていました。なぜなら、明大中野の入学式で、音楽部の先輩方がこの曲を演奏してくださり、とてもなじみ深い曲だったからです。

また、この鑑賞会では大学の方々の指の動きをよく見ようと思いました。私は音楽部に入部し約半年間練習してきましたが、思うように指を動かすことができなくて困っていたので、演奏される方々の指の動かし方を参考にしようと思ったのです。すると当日、「大学の先生に花束を贈呈するので、そのときまで前の方で待機するように」と言われました。私が花束を渡すのはオーケストラの前に演奏してくださったオルガンの先生だったので、うれしいことにオーケストラを間近で鑑賞することができました。

そして、鑑賞して分かったことが三つありました。一つ目は指の動きに無駄がないことです。別の指で押さえているときも少し指を浮かせている程度なので、すぐに次の音が出せるのです。また､ポジション移動も最小限の動きのため、音を素早く出せていました。二つ目は、姿勢が終始きれいなことです。胸を張って楽器を支えているため､楽器が上がり、指が動かしやすいようでした。私は演奏の途中で腰が曲がり、楽器が下がることがよくあります。気をつけようと思っていても曲がってしまうのですが、胸を張れば背筋も伸びるのだと分かりました。三つ目は全員がまとまっていることです。楽器ごとで音がまとまっていて、さらに楽器のトップたちがアイコンタクトをとって音を合わせているように感じました。メロディーが常によく聞こえ、互いが互いを支え合っているように思いました。

私は、この鑑賞会を通して学んだことも二つあります。一つ目は「練習」の力です。大学生とはいえ、練習しなければきれいな音を出すことや音を合わせることはできないと思います。二つ目は意識の高さです。私はオーケストラの奏でる音を聴いて、音程がとてもきれいで普段から高い意識を持って練習していることを感じました。大学生が実際に練習しているところは見ていませんが、素晴らしい演奏の陰にある「練習」の力を感じました。私も、「きっとたくさん練習したのだろう」と観客の方に思っていただけるような演奏をできるようになりたいと思いました。

「校外学習」を振り返って（中学２年）

中学2年　高尾 友一

ＴＧＧ（東京グローバルゲートウェイ：体験型英語学習施設）の建物に入ると、受付の人の「Good Morning」という大きな声で迎えられた。自分は今、英語だけしか話してはいけないという未体験の領域に入ったのだ。英語だけの世界はとても難しいことだと考えていた。そして、それは想像以上だった。

皆､始まる前は「それは無理だよ」と口々に言っていたが、エージェントの人が来て自己紹介をするときは、緊張で英語が詰まってうまく言葉が出てこなかった。しかし、エージェントの人は色々なヒントを与えて助けてくれた。特にうれしかったのは「very good」の言葉だった。発音や意見がよかったときは、とことんほめてくれた。

英語を使っての体験学習では、橋の模型製作をした。橋の作り方の説明も全て英語だった。グループの仲間とともに単語一つ一つを理解しながら、できるだけ頑丈な橋を作り、最後にその頑丈さの検証も行った。

二つ目の体験は、海外に行ったかのような様々な場面でのやりとりだった。英語でコンビニの商品を買うのも初めての体験で、将来海外に行ったときのためになるフレーズを学習することができた。

お世話になったエージェントとの別れのときには、今日やったことを振り返りながら、最初のたどたどしかった英語での自己紹介がいつの間にか、すらすらと英語で話せるようになっていたので、英会話の能力が身についた気がした。毎日の英語の授業でリスニング能力も上がっているのではないかと思う。

この日の体験によって、自分の英語力でも海外に行って通用するかもしれないと実感できたので、早く海外に行ってみたくなった。英語は大人になっても必要となる言語なので、なるべく早く習得していく方がよい。そして、英語だけでなく、フランス語やスペイン語にも挑戦したい。

今回の体験で「外国人と話す」という挑戦が自分のこれからの未来を広げてくれたような気がする。この挑戦が無駄に終わらないように、英語の勉強に力を入れていきたい。

「教科見学会」を振り返って（中学２年）

中学2年　大石 将馬

私は中学１年生と合同で武蔵野音楽大学での音楽鑑賞会に行った。そこでは大学生によるパイプオルガン演奏やオーケストラ演奏があった。

私は、特にオーケストラによるドボルザークの交響曲第九番「新世界」第四楽章を聴きたいと思っていた。明大中野の入学式では音楽部の生徒が新入生に向けてこの曲を披露している。私の中学入学式のとき、音楽部の先輩方がこの曲を演奏していることにとても感動した。それが私を音楽部に導いたきっかけにもなった。このように私にとって「新世界」という曲はとても関わりが深いので、大学生の方々のこの曲の演奏を聴きたいと強く思ったのである。「新世界」以外にも演奏された曲のなかに知っている曲はたくさんあり、どの曲の演奏も素晴らしかった。しかし、「新世界を聴くためにこの演奏会に来たのだ」という意思が強かったので、この曲を聴きたいという思いで胸がいっぱいであった。

もう一つ、私には「新世界」の演奏を聴きたい理由があった。それは、私たち音楽部による演奏と大学生による演奏を聴き比べることだった。まだ演奏を始めて短い年月しかたっていない私のような音楽の素人に、演奏の違いを聴き比べる能力が身についているわけではないので無意味なことだとも考えたが、少しでも違いがわかればそれでよいと思った。

しかし、そのような私の思いは、「花束贈呈をする生徒は新世界の演奏の途中で舞台裏に行くように」と先生から言われたとき、少し薄れてしまった。目の前で演奏される音をはっきりと聴きたかったのだが、舞台裏で聴いたら音の迫力も何も味わえないではないか、とも思ったが、皆の前で大学生の方々に花束贈呈をするという緊張感で、そのことも忘れてしまった。気づいた頃には、私は「祝賀御礼の儀」で天皇御即位をお祝いする「令和」という曲を指揮されていた北原幸男先生と握手をしていた。

「職業体験」を振り返って（中学２年）

中学2年　瀬尾 律翔

私は、春日部市にある落花生やナッツ類の加工原材料メーカー、（株）辰巳屋で職業体験をしました。

今回の体験で私は、多くのことに気付き、また考えました。お客様に送る品物の数を倉庫に伝えるという仕事があるのですが、パソコンで打つのを少しミスしただけで数が変わってしまい、会社に大きな損害を与えるということを知りました。やはり生半可な気持ちでは仕事には臨めないと強く感じました。また、部屋に入るときに社員の方がドアをおさえてくださり、他にも色々と細かい気配りをしてくださることに敬服しました。機械を動かすときに、「みんなＯＫ？」と確認を取っているのを見たときにはチームワークの大切さを感じました。

自分の反省点としては、返事をするときに声を出せなかったことが何度かあったことと、自分から質問する回数が少なかったことでした。会社での取引は、細かい気配りやコミュニケーションをとることによって生まれる明るさが大事なので、改善したいと思いました。

社長がおっしゃっていたのですが、トラックで商品を運んでくれる運転手の方に「ちゃんと運べよ」と上から目線の態度をとるか、「いつも運んでくれてありがとう」という態度をとるかで、相手の気持ちに大きな違いが生まれるそうです。社長はもちろん後者の態度をとります。その理由は「感謝」によって信頼関係が育まれるからだそうです。この言葉にはとても感動しました。今回の職業体験で学んだことや感じたことを自分の今後に生かしていきたいと思います。

「校外学習」を振り返って（中学３年）

中学3年　川嶋 大介

私たち中学３年生は、ゴールデンウィーク直前の４月下旬、校外学習で鎌倉に行きました。出発するときはあいにくの雨でしたが、午後には天気も回復して晴れ、鎌倉の一日を楽しむことができました。

今回の校外学習は４人一班の班別自主行動で、事前に配布されたガイドブックなどを参考にしながら、自分たちで一日の予定を組みました。どの寺院をどういう順番で見学し、どこで昼食をとり、どのような交通機関を使って移動するかなど、地図を見ながら電車やバスの時刻も調べ、すべて自分たちで一日の行程を決めて行動しました。

私たちの班はたくさんの寺院を巡りましたが、その中で最も印象に残っているのは、鎌倉最古の寺と言われる杉本寺です。このお寺自体はそれほど大きくはありませんが、階段に大量の苔があり、歴史を感じさせる不思議なオーラが伝わってきました。

他にも長谷寺や鎌倉大仏で有名な高徳院など様々な場所を見学しましたが、計画していた時刻をあまり気にせずに寺院巡りに集中してしまった結果、最後に学年全員がチェックを受ける鶴岡八幡宮への集合時刻に遅れてしまいました。このことは中学３年生として、もっと時間に余裕を持って計画的に行動しなければならなかった、と痛感しました。この反省点を秋に行われる奈良・京都の修学旅行に活かし、自主見学ではより綿密な計画を立て、当日の行動が計画通りに進むように改善したいと思います。そして、この日の経験を活かし、最高学年の先輩として、様々な場面で後輩のお手本となれるように、これからも努力したいと思いました。

今回の校外学習は、鎌倉時代の歴史を勉強するとともに、気の合う友達と一緒に自分たちで作った見学コースをまわることができ、とても楽しいものとなりました。今でもその余韻が残っています。これから行く後輩たちも、ぜひこの校外学習を楽しみにしてほしいと思います。

「修学旅行」を振り返って（中学３年）

中学3年　小田 祥巨

まず今回の修学旅行を無事に終えられ、全ての先生方、その他の関係者の方々に感謝したい。

自主見学では一から自分たちでプランを考え、自分たちが行きたいところに自由に行かれ、とても楽しい時間を過ごすことができた。

訪れた見学地も鮮明に覚えている。特にタクシー研修で訪れた南禅寺は今でも色濃く私の心に残っている。南禅寺に入り、すぐに見える巨大な三門を抜けた先の庭は思わず足を止めてしまうほど美しかった。静かで美しいお寺なので、また来てみたい。

また、最終日の妙心寺での座禅体験も記憶に新しい。実際に座禅を体験すると、最終日で疲労も溜まっているはずなのに十数分があっという間に感じられた。その後のお坊さんの「自分の価値観を押し付けるな」という話は、オリンピックなど世界の人々と交流する機会の多い時代に生きる私たちにとって互いの違いを認め合って尊重し、歩みよる努力をしなければならないと感じ、私の心に響いた。趣のある素晴らしいこの地にまた来たいと思った。

中学3年　久保田 京介

私は今回の修学旅行でたくさんのことを学ぶことができ、楽しい思い出となった。また滅多にできない体験や見学ができた。その中で二つ、特に印象に残ったことがある。

一つ目は、二日目の東大寺の見学である。この寺は大仏殿の外にも一人の仏様がいると言う。この仏様は仏界での規律を破ったために外に追放されたそうだ。この話を聞き、私も普段からマナーやルールを守って行動し、一日一日を真面目に過ごすことが大切なのだと思った。

二つ目は、最終日の妙心寺での座禅体験である。この体験は私にとって一番の貴重なものであり、心を落ち着かせることができた。お坊さんは、人は「頭がよい」だけでなく「意外性」や「おもしろさ」なども必要だとおっしゃっていた。勉強はもちろん、部活動や様々な行事にも一生懸命に取り組もうと思った。

今回の修学旅行を通して、奈良や京都の歴史を学ぶとともに、個人や家族で行く旅行とは違い、クラスやグループで行動するときに守るべきこととして「人の話をしっかりと聞くこと」や「時間を守ること」などが大切だと感じた。この経験を無駄にせず、毎日の生活に活かそうと思った。

「東京六大学野球応援」を振り返って（高校１年）

高校1年　前國原 海斗

5月25日、私たち高校１年生は六大学野球応援のため、学生野球の聖地と言われる神宮球場へと足を運びました。私は現在高校野球部に所属していますが、いつかはこのフィールドに一人の選手として立ちたいと思っています。私は応援当日が近づくにつれて気持ちが高まり、早く応援したいという気持ちとともに、一人の野球人として六大学野球のレベルの高さ、自分たちと違う技術面や試合の流れなどを学びたいと考えていました。

さて、当日になり、私が球場のスタンドに入り最初に感じたのは、想像を絶するほどの観客の多さでした。その後、静粛な雰囲気の中で行われた対戦する大学とのエール交換を経て、試合が始まりました。明治大学の応援団やチアガール、吹奏楽、後方からの大勢の明大卒業生の方々の応援の一体感に圧倒されながら、私たちもそれに負けないよう応援に励みました。試合中は高度な技術のプレイに夢中になりました。当初の目的であった大学生の素晴らしい野球の技術も目にすることができ、到達できるよう頑張っていこうと心に誓いました。

結果は引き分けで終わりましたが、私がこの日に強く感じたことは、応援の力と、最後まで諦めない心を持つことの重要性です。高校に入学して１カ月あまりが過ぎた時期に、校外で皆が団結して一つのことに一生懸命に取り組み、野球の応援というものを通して改めてクラスや学年内の交流が深まり、野球の新しい楽しみ方も学ぶことができた一日でした。そして９回裏二死まで負けていても、最後まで諦めなかったからこそ同点に追いつくという結果が生まれたのだと思います。

私たちも、勉強でもクラブ活動でも最後まで諦めないという気持ちを大切にしながら、たくさんの人に応援してもらえるように精進していきます。後日、優勝を決めた明治大学、おめでとうございます。

「移動教室」を振り返って（高校１年）

高校1年　加々美 晶

期末試験が終わり、夏休みの行事である移動教室が始まりました。今回の移動教室では「自分たちで企画して自分たちで運営する」を目標としたレクリエーション大会を開催することになりました。

初日のドッジボール大会では、審判をやる係や試合順を実行委員のメンバーが完全には把握しておらず、お世辞にも「成功」とは言い難いものになってしまいました。そこで実行委員長の私は失敗を抱え込んでしまい、あたふたしてしまいました。しかしそのような中、「手伝うよ」と声を掛けてくれる友人がいること、それが本当に嬉しくて、私は彼らを「救世主か」と思ってしまいました。「ありがとう。じゃあごめん。あっちの試合を頼む」と伝えたとき、不覚にも私の目は潤んでしまいました。

三日目にはサッカーやソフトボール、ボードゲーム等の選択時間を設け、その際は各種目の実行委員会のメンバーがそれぞれ円滑に運営を行ってくれました。中には委員以外にも時間を割いて運営サイドを手伝ってくれる友人もいました。皆の協力の甲斐もあり、選択時間は大変盛り上がり、「楽しかった」と言う声が多く聞かれ、選択時間は成功を収めることができました。

今回の移動教室を通して体験したこの二つの出来事は、私に「自分一人では何もできない」ことと「友人の大切さと優しさ」を実感させてくれました。ラグビーのワールドカップが開催され、「ワンチーム」という言葉が有名になりましたが、組織の中の一人一人の協力、友人や仲間が一つに団結することがいかに大切かも併せて学ぶことができました。

「助け合える友人や仲間」とたくさん出会え、ともに成長できる明大中野。私はこの学校に通って本当によかったと思いました。

「体験型英語学習」を振り返って（高校１年）

高校1年　桒原 悠

今回のＴＧＧ（東京グローバルゲートウェイ：体験型英語学習施設）では様々な気づきがあった。最初に感じたのは、私たちを担当しサポートしてくださったエージェントの方々の明るさだ。彼らは満面の笑顔で私たちに積極的に話しかけてきた。その笑顔とエネルギーに圧倒され、少し距離をとってしまうほどだった。「何て元気な人たちだろう。」素直にそう思った。無意識に周りの班と比較してしまったが、他のエージェントもやはりエネルギッシュな人が多かった。彼らと私たち日本人とでは雰囲気と明るさが違っていた。

私たちの班のプログラムは自己紹介から始まり、自分の夢を発表するものだった。私は幼少の頃から語学学校や両親から英語の手ほどきを受けていたので、英語を使う職業に興味があると伝えた。しかし今思うと、それは十分なプレゼンテーションではなかったように感じる。プレゼンテーションに込めたエネルギーや情熱は十分だったのだろうか。力強くリスナーに伝えることができたのだろうか。どうしても一緒にいるエージェントの方と比較してしまう。私の英語のコミュニケーション能力では足りない部分があると思った。

英語ネイティブもしくは英語を母語とする国の人々は皆、積極的で自分の熱意を伝えるためのスキルが高いのではないか。そのような姿勢は自分の主張を強く発信し、コミュニケーションの場を支配することに有利なのではないか。そう感じた。

今回の体験で、私に足りないことと、これからの課題がみえてきたと思う。それは「積極性とエネルギー」だ。今までの私は、英単語等の暗記や英語の資格取得で満足していた。しかし、このような机上の勉強で完結するものでは通用しない。英語を理解することに対する私の認識は甘かった。学校の授業でもネイティブの方と会話をする機会はある。そこで予め設定された問いに答えるだけでなく、自分から質問を発信していきたい。それだけで彼らのようになれるとは思わないが、些細なことでも実行していきたいと思う。

体験型英語学習

体験型英語学習

「明治大学特別進学講座」を受講して（高校１年）

高校1年　筒井 智将

今回の特別進学講座を通じて、私は本当の大学の姿を少し知ることができたと思う。配布された明治大学のパンフレットの学部紹介を読んでいて、聴講する前はあまり興味を持てない学部もあった。しかし、各学部長の先生方のお話を聴かせていただき、そのイメージが変わった学部もいくつかあった。文系というイメージが強かった学部にも理系に近い要素があったり、理系のイメージのある学部にも文系的な要素があったり、文理融合型という新しい形の学部があることも知ることができた。

この講座を通じて、大学での生活や各々の学部・学科で研究できることなどといった大学に関する新しい知識を得ることができたので、とても有意義な時間を過ごすことができたと思う。

目標の学部・学科に進学するため、今まで以上に高校での勉強に力を入れていきたいと思う。

高校1年　栗山 千之亮

私は明治大学特別進学講座を通じて、自分の志に変化を感じることができた。学部選びにも非常に役立つ講座であったが、私たちが社会で求められる能力の重要性を再認識した非常に有意義な時間であった。

私たちはこれから大きな変動の時代を生きることになる。例えばソフトバンクグループが約70億円もの大赤字を計上したこと。また、トヨタが自動車製造からモビリティカンパニーにシフトチェンジすると決断したこと。このように現代はダーウィンの進化論と同じく、「変化に強いもの」が生き残るのだ。昔は確かに皆がうまくいっていたから皆に合わせればよかった。しかし現代では未来を見据えて新たな行動を起こすことが大切だ。過去の成功体験を顧みながらも、新しい体験や情報などを積極的に入手し選択する。このような本質的な学びをし、その成果を適切に活用できる者にこそ変化はきっと訪れる。私たちは変わり続けるために学ばなければならない。そのために、この講座をきっかけにして今まで以上に高校での勉強に力を入れていきたいと思う。

高校1年　鬼久保 皓平

私は、大学生活は遠い先のことであり、今から特別にすることはないと考えていた。しかし、明治大学特別進学講座を受け、その考えは大きく変化した。

私が特に今回の講座で注目したのは、政治経済学部の紹介にあった留学制度だ。あとで調べて「大学間協定留学」と呼ばれるものだとわかった。この留学の特徴は、大学側が留学に必要な助成金を支給する場合が多くあるということだ。私はかねてより大学在学中に留学したいと考えていたので、この留学制度にとても惹かれた。しかし、この制度は大学からの推薦が必要なため、学内選考を通過しなければならない。そのために高い語学力が求められる。このことを踏まえ、私は今自分がすべきことは英語を今まで以上に勉強し、その力をどんどんつけていくことだと思った。

私は今回の講座で、それぞれの学部についての知識を得るとともに、大学に入学してから自分がしたいことを実現させるためには既にその準備期間に入っているのだ、ということに気づかされた。とても有意義な講座であった。

「修学旅行」を振り返って（高校２年）

高校2年　小田 修輔

私たち高校２年生は、４泊５日の修学旅行で沖縄に行きました。前半の行程は沖縄本島で過ごし、主に沖縄戦について学び、後半の行程は渡嘉敷島と西表島に分かれて自然体験をしました。

事前指導において学年主任の先生が「修学旅行では五感をとぎ澄ませてほしい」とおっしゃっていましたが、まさに今回の修学旅行では、自分の目で見たり体験したりすることの大切さを強く感じました。そして修学旅行に行く前から戦争の悲惨さや残虐さを理解していたつもりでした。

しかし、それは私の勘違いでした。実際に轟壕（とどろきごう）に入り、ガイドの方のお話を伺っていると、20分ほど中にいただけなのに湿気と暑さで汗が出てきました。いつ終わるのか分からない戦争により極めて劣悪な環境のガマ（壕）で生活することを余儀なくされた当時の人々のことを考えると、74年前のこととは思えず胸が痛みました。

また佐喜眞（さきま）美術館においても、屋上から普天間基地を見渡すことができました。基地は市の中心部に広がり、安全面の問題や騒音などによって沖縄の人々の生活が脅かされているということを実感しました。実際に普天間基地を見ていなければ基地問題を真剣に考えることはなかったと思います。今の私たちの幸せな暮らしは、戦争当時から現在に至る沖縄の人たちのお陰で成り立っているということを忘れずに生きていこうと思いました。

今回の修学旅行では自分の目で見て体験することの重要さを学び、今後もこのことを大切にしていきたいと思います。

高校2年　大塚 悠

この修学旅行は、私にとってこれからの生活について考える機会を与えてくれる貴重なものでした。

まず私たちの団は、離島に行って自然体験をしました。西表島に行ったとき、その自然の雄大さに驚きました。そこで見た全てのものが東京にはなく、とても新鮮でした。シュノーケルで泳いだ海は息をのむような美しさで、時間を忘れるほど楽しかったです。そして自然体験を終えて平和学習に向けて気持ちを引き締めたとき、衝撃的なニュースが入ってきました。私たちが翌日見学するはずだった首里城が全焼してしまったのです。クラスメートからその話を聞いたとき、自分の耳を疑いました。しかしそのニュースが事実だと知り、残念な気持ちのまま平和学習へ向かうこととなりました。

平和学習では私の想像を超える戦争の過酷さを学びましたが、それ以上に沖縄の人をこの上なく苦しめた日本とアメリカの戦争はアメリカ軍基地やオスプレイの問題などに形を変え、終戦から今に至るまで続いているという事実が衝撃的でした。特に美術館のガイドの方がおっしゃった「沖縄の人全体の意見は日本の人口の１％にしかならない」という言葉は私の心に強く響きました。そしてこの問題は日本人全体の問題だということを深く理解しました。

今回の修学旅行は、来年選挙権を得る私たちにとって日本の将来を考えるとてもよい機会になり、この経験を今後の生活に活かして頑張りたいと思います。

「進路セミナー」に参加して（高校２年）

高校2年　三ツ矢 賢人

私は今回の進路セミナーで二人の方の話を聞きました。

一人目は、ソニー株式会社の方です。この方は学生時代に文系と理系のどちらの道にも興味があり、文理選択では散々迷ったそうですが、大学生の後半の時期に趣味であるプログラミングを通して自分の将来の方向を見つけ、パソコン設計や音楽の配信ビジネスなどの仕事を経て、現在は文系と理系が融合した仕事である「チーフＣＸストラテジスト」という役職に就いているそうです。

二人目は、公認会計士の方です。この方は大学付属校出身で、その利点を活かそうと高校２年生のときには既に簿記二級を取得し、３年生のときに公認会計士を目指す決意をし、大学生時代に公認会計士試験に合格して現在に至るそうです。

私はこの方々の話を聞いて、学生時代にやりたいことを見つけること、資格を取ること、どちらも大切だと思いました。趣味であるプログラミングをそのまま仕事にしたり、専門的な資格を取得したりと、自分の将来を考えて学生生活を送っていたのだと印象に残りました。今の私はソニーの方のように、好きなことに熱中する人間に近いのですが、公認会計士の方の話を聞いて、私の周りにいる友達のように簿記などの資格を取ることも良い選択だと思いました。お二人の話を聞いてどちらも納得でき、自分の進むべき道はやはり自分で決めるべきだと思いました。

この進路セミナーを通して、自分の趣味をそのまま仕事にしていきたいと思う反面、今まで考えてもみなかった、資格が必要な公認会計士などの専門職も視野に入れるべきだと思いました。進路セミナーはこれからの一度きりの人生を深く見つめ直すことができる良い機会になりました。来春には３年生になるので、自分の進路を人生とあわせて改めてじっくりと考えようと思いました。

「福島被災地研修」に参加して（高校２年）

高校2年　本多 拓翔

私は今回、福島被災地研修に参加し、昨年に引き続き福島を訪れる機会に恵まれました。研修に参加して様々なことを見聞きする中で、福島が現在直面している問題や福島第一原発の現状について考えさせられました。

まず、現在の福島が直面している問題とは、人々の「無関心」です。震災の後、原発の事故があり、福島のほとんどの農作物や海産物が放射線の影響を受けました。それに加えてたくさんのデマも拡散され、風評被害まで発生してしまいました。震災から約９年が経ち、ほとんどの農作物や海産物は福島の方々の努力によって安心して食べられるようになり、それによって風評被害も減ってきました。ところが、９年という月日は良い意味でも悪い意味でも、福島に向いていた関心そのものをなくしてしまったのです。東京ではテレビで福島の震災や原発に関するニュースを見聞きすることは少なくなり、自分から情報を集めようとしない限り、福島のことを知る機会はなくなりました。

初日に福島の漁港を訪れましたが、まだ基準値を超える放射線量が検出される魚がいるため、漁業を再開できず、いまだに人はほとんどいませんでした。私たちの多くはこのような福島の現状を知らずにいます。福島の復興を少しでも早めるためには、まず人々が「無関心」でいてはならないと強く感じました。

二日目は今回のメインである福島第一原発を見学しました。昨年は遠くから眺めるだけでしたが、今回は原子力発電所を目の当たりにして、私は唖然としました。屋根は吹っ飛び、鉄骨はひしゃげて曲がり、瓦礫はまだ残っていたのです。バスで発電所内を巡回したのですが、よく見ると津波の爪痕も残っていました。この福島第一原発の現状は筆舌に尽くしがたく、もっと大勢の人々にこの現状を見てもらいたいと思いました。

今回の研修に参加して、福島の復興には、福島の現状をもっと大勢の人々が知ることが何よりも大切だと強く感じました。そして今自分ができることは、この経験を多くの人々に伝えていくことだと考え、行動に移そうと思います。

「明治大学農学部・理工学部見学会」に参加して（高校２年）

高校2年　中筋 隆人

私は将来、システムエンジニアになりたいという夢があり、その分野を学べる学部を中心に見学ができればと思っていました。残念ながら今回の見学コースには見たいと思っていた情報科学科はありませんでしたが、自分が学びたいと思う分野の方向性に近い３Ｄプリンターを扱う研究室を見学し、とても勉強になりました。他に物理学科のレーザー光の研究室や多くのデータを基に様々な研究をしている研究室があり、それぞれ大変興味深く、夢が広がっていくような期待感を持ちました。専門的な知識がないと理解が追いつかない場面もあったので、そこに大学の意義を見つけたような気がします。そして自分の希望する職種や学部を明確にすることがいかに重要なことかを知りました。自分の希望する学科以外にも、建築構造の研究室など新たに興味が湧いた分野があったのも大きな成果だと思います。

最後に、知る事・学ぶ事、そこに終わりはないのだと思い知りました。

高校2年　瀬畠 知大

今回、私は工学系の学部を志望していることもあり、理工学部を見学しました。生田校舎を訪れたのは初めてでしたが、緑が多く自然に恵まれた広大なキャンパスだなと思いました。高校では文理の選択はあれど、基本的には皆ほぼ同じ内容の授業を受けるのに対し、大学では学部の選択に加え、何を学ぶのかと学科の選択もしなければなりません。私が見学した理工学部も８つの学科に分かれていて、そこから更にたくさんの研究室が存在します。

今回見学した研究室の中で私が最も興味を持ったのは、情報科学科の画像応用システム研究室です。そしてその中でもスポーツ画像解析が一番気になりました。これは私が大学で研究したいテーマとは異なりますが、スポーツ観戦が好きな私にとってはとても興味深い内容でした。今回見学できなかった他の研究室ではどのような研究が行われているのか気になったのと同時に、自分が何を学びたいのかをしっかり見極めなくてはならないことを再認識することができました。

高校2年　吉田 孝太郎

私は小さい頃から生き物が大好きでした。アリの行列やシャクトリ虫を見つけると１時間以上も観察を続けました。セミや魚を捕まえることも大好きでした。

そんな私の生物に対する興味は中学３年生のときに増大しました。理科の授業で「遺伝」について学んだのですが、生物の本質が見えたように思えて感動しました。珍しく自らその分野について調べたりもしました。生物についてもっと知りたいと深く感じた経験でした。

今回、実際に農学部で設備や機具、学生が実験する様子を見学し、大学生活が一部具体化しました。先生方の説明は興味深いものばかりでした。

「植物工場」と呼ばれる施設では、野菜を栽培する際に赤色や青色の光を当てるのだと言います。緑色の植物の葉はそれらの色の光を吸収するからです。このような生物の性質を利用したものを他にもたくさん知りたいと、またその性質そのものを研究したいと思いました。

今回の見学は、大学での生活が具体的にみえてきた点や生物への興味・関心を深められた点でとても有意義なものとなりました。

「明治大学公開授業」に参加して（高校３年）

高校3年　馬場 一誓

今回、明治大学公開授業を受けて、大学がどのような学びの場なのか、より深く知ることができ、とても有意義な時間を過ごせました。

法学部の一限目、刑事訴訟法は司法試験向けのコースで、授業中に試験対策も話されていて、国家資格を取得するのによい環境であると感じました。二限目は法学部の民事執行・保全法でした。しかし、私たちがこのテーマの講義内容を途中から受講したこともあり、難しいものでした。一限目とは違う民事の分野も興味深いと思いました。法学部はインターネット関連のコースなどもあり、現代の社会で使えるスキルを身に付けることができるので、関心がより一層高まりました。次に政治経済学部の講義を選び、マクロ経済という授業で、社会の循環的経済を学びました。私は今まで政治経済学部を視野に入れていませんでしたが、高校にはない先生自身の著書を使って授業が展開されるなど、理解しやすいような工夫はさすがに大学らしく、憧れが生まれました。

最後に選んだ文学部は、現代社会学の「身体と社会」という授業でした。日本から西洋までの性への捉え方などを学びました。高校まででは知ることができない知識やそれを深める現代社会学で、新しい観点を知ることができ、非常に楽しい体験ができました。

このような二日間の経験を通して、今まで曖昧だった大学へのイメージが湧き、自分の将来を考える上で一つの判断材料として大きな役割を果たしてくれたと思います。大学という新たなステップへ上がることを楽しみにして、残りの高校生活も学業に励み、大学生になる準備をしておこうと思います。

高校3年　吉岡 京祐

私は6月11日・12日の二日間にわたり、明治大学生田キャンパスの公開授業を受講しました。その中で私が以前から興味のあった理工学部建築学科と数学科、農学部生命科学科の授業を受けました。

印象に残ったことの一つは、ほとんどの授業において先生方の板書の量が非常に少ないということでした。パソコン上の画面をスライドに映しながら口頭で説明されるため、聞いたことを自分でメモしなければならないということが非常に集中力を必要とし、難しかったです。また、大学では授業時間が高校の２倍近くあるため、その間集中力を保ち続けている明大生の勉強に対するレベルの高さを感じました。

次に自分の興味のあることについて学べることの楽しさを体感することができました。私は建築学科に最も興味があったので、大学で建築について毎日深く勉強できたら楽しいだろうと思いました。また、どの授業でも高校で習っている数学や物理、生物についての知識を使っていたので、今勉強していることがとても大事だということが分かりました。そのため、各教科について深く勉強し、いつでも知識を使えなければならないと思いました。

以上のことから、大学に進学して更に専門的な内容を理解するためには、高校で習った基本事項をしっかりと身につけておかなければならないと思いました。高校での学習内容を十分に理解した状態で大学に進み、その力が大学で活かされるよう、卒業するまで勉強を頑張る決意をしました。

「ニュージーランド語学研修」に参加して（中学３年）

中学3年　山柿 康希

私はニュージーランド語学研修に参加するにあたって目標を立てた。まず、積極的に現地の人とコミュニケーションを取るということ。そして自分の英語力を高めるということだ。今まで家族で海外旅行に行ったことはあるが、ホームステイは初めてだ。この目標に挑むにはぴったりの環境だ。この研修で感じたことは大きく分けて三つある。

一つ目は、人々の優しさだ。ホストファミリーに会う前は意思疎通ができるか心配していたが、言葉に詰まってもにこやかに対応してくれ、常に気さくに話しかけてくれた。日が経つにつれて会話もスムーズになり、ホストファミリーと楽しく過ごすことができた。休日にはバルーンフェスティバルに連れて行ってもらった。広大な敷地に色とりどりの気球が並んでいて、夕暮れの中での気球の明かりは幻想的できれいだった。また、現地の学校の人たちもとても優しかった。私が困っているときにはいつも助けてくれて、とてもありがたかった。

二つ目は、美しい景色だ。ホストファミリーの家は田舎の方で、山々に囲まれていた。特に朝の空気が清々しく、空気もきれいだった。ホストファミリーは農家でアボカドを栽培していた。収穫時期ではなかったので食べることができず残念だった。また、マンガヌイという山に登り、そこから見た景色は格別だった。私は一生あの景色を忘れないだろう。

三つ目に強く感じたことは、英語という言語の大切さだ。私が通った学校はインターナショナルな学校で、様々な人種の人がいた。母国語ではない英語でコミュニケーションを取っている。英語が彼らを結びつけているのだと痛感した。私がもっと英語を話せていたら、動じずにその輪に入れたのにと思う場面がいくつもあった。もっと積極的にコミュニケーションを取らなければ…という気持ちと不足している英語力がもどかしかった。と同時に、さらに英語の勉強をしていきたいと思った。

この研修の目標達成は１００％ではないかもしれない。しかし数々の体験ができたことに感謝し、全力で取り組んだ自分に満足している。ニュージーランドで会えた多くの人との出会いを忘れずに、この経験をただ楽しかったということで終わらせることなく、高校でもより一層英語力を向上させることに努めたい。

ニュージーランド語学研修

海外研修は、中学生は3月に11日間の日程でニュージーランドに行き、高校生は8月に14日間の日程でアメリカに行きます。ホームステイをしながら、現地学校での授業を体験します。現地の人々や文化・伝統に触れ、日本のよさを発再見し、また、世界に目を向けることにより、その後の学習へのモチベーションを高め、将来の進路に役立てることを目的としています。特に高校生対象のアメリカ研修では、現地大学や国連本部などの訪問といったキャリア教育にも力を入れています。

「アメリカ研修」に参加して（高校２年）

高校2年　坂本 璃空

２週間のアメリカでの生活全体を通して私が痛感したことは、「日本語」と「英語」という言語の違いを語る以前の段階として、人間としてのコミュニケーション能力やあらゆる物事に臨機応変に対応できる能力が海外でも必要不可欠だということだ。むしろ海外にいるほうが、そのような人間としての基本的な部分がはっきりと現れるのかもしれない。

研修４日目、私たちは各自ホストファミリーの家へ向かった。それまではホテル生活で、どこか旅行気分だった。ファミリーの家へ向かう車の中で急に緊張し始めたが、友人もいるし大丈夫だろうとも思っていた。

事前のファミリーの紹介文は、60代の男性が１人ということだったが、私たちを迎えてくれたのは何と女性と若い男性だった。最初、家を間違えたのかと思った。実は、紹介文の男性は怪我で入院中だったので、彼のお母さんが代わりに迎えてくれたのだ。もう一人は17歳のフランス人留学生で、随分前からその家で生活していたようだ。想定していた状況との違いに私はうろたえた。下手な英語で何とか挨拶をすませ、用意された部屋に入った。しばらくすると、フランス人留学生がビデオ通話をしながら入ってきた。相手は入院中のホストファザーだった。私たちはビデオ通話でその家の主人と初めて会話した。突然かつ想定外の出来事で何を話せばよいか分からず、ごく簡単な返答しかできなかった。時には聞き取りづらくて返答に詰まってしまうこともあったが、ホストファザーが親切に言い直してくれたので、何とか理解することができた。ホストファザーが無事に退院してから、約１週間５人で生活し、多少の会話を交わせるようになった。しかし、最初に話題をふってくれるのはホストファザーやお母さんや留学生で、私たちは翌日の予定や家の中のルールについて聞くときくらいしか話しかけられなかった。今となってはもっと積極的に話しかけてみるべきだったと非常に後悔している。正確な英語を話すことに意識を集中するよりも、恥をおそれずにどんどん他人とのコミュニケーションを計ろうとする姿勢を見せることが大切だと思った。日本では少し事情が異なる場合もあるかもしれないが、普段の生活から培っておくべきものだと思う。また、先述のビデオ通話のときのような想定外の場面では、冷静さを欠くことなく対処できるようになることが理想だと感じた。難しいことだが、これから日常的に実践していきたい。

高校生の時期から海外へ赴き、そこで生活するという経験は非常に貴重なものであるし、恵まれた環境があって初めて実現されることなので、私はそのことを自覚してこの研修で得たものをもう一度確認してみたい。そしてこの経験が自分の生活に多少の変化をもたらし、少しでも他人のためになるようなものになれば、非常に有意義で素晴らしいことだと思う。

高校2年　中田 慎之介

私は本場の英語の発音や速度を知りたいと思い、この研修に参加することに決めた。この研修から学んだことは三つある。

一つ目は自分の英語での会話能力が未熟であるということだ。学校のテスト用の英語に慣れていたので、実際に英語を使って話すことは難しかった。ボストンでホームステイ先からバスと電車に乗り、現地の語学学校に通った。そこでは様々な国の人が英語を学んでいた。私たちのように数週間から数か月間英語を学ぶために来ている人もいれば、現地で働いている人、生活がひと段落し、夫婦で学びに来ている人もいた。私のadvancedクラスでは義足に関する英語のプレゼンテーションを視聴したり、今後の医療技術についての文章を読んで、感じたことやどのように思うかをお互いに発表し合ったりした。最初は日本語でも考えないようなことを英語で伝えるのに苦労したが、3日目頃からは慣れてきて伝えられるようになった。しかし、他の人の言っていることが聞き取れないことがあり、リスニング能力を鍛えなければならないと思った。学校教育だけでは英語で話す機会などあまり多くないので、私は英会話を定期的に習うことにした。付属校におり、大学受験をする高校生と比べて自由に使える時間が多いので、自分の英語力をさらに伸ばしていきたい。

二つ目はアメリカの文化についてだ。これに関してはホームステイをしたことで、より多くの文化について学ぶことができた。例えばアメリカでは食べ残しを捨てることが一般的だ。ホストファミリー宅のゴミ箱には食べ残しが多く捨ててあった。また、ゴミの分別もない。そのためゴミ箱のサイズも大きい。他の文化としては、私のホストファミリーはアフリカ系の黒人だったが、夕食は基本的に米だった。もちろん、日本でよく食べられるジャポニカ米ではなく、インディカ米であったが。米を食べるのはこのホストファミリー独自の習慣なのかと思ったが、ホストファミリーが他の黒人のパーティーに連れて行ってくれ、そこでも米料理が必ずあったのでアフリカ系の黒人は米をよく食べるという習慣があることが分かった。

三つ目はコーラについてだ。アメリカではコカ・コーラとペプシコーラ、両社の競合が激しいことは周知の事実であるが、このことについても発見があった。まず、飲食店では大抵、片方の会社の製品しか取り扱っていない。しかし、駅の売店や町のコンビニでは必ず両方とも取り扱っている。日本でもペプシコーラをコカ・コーラと同じくらい取り扱って欲しいものだ。また、日本に比べコカ・コーラの種類がとても多かった。私が飲んだものの中だけでもコカ・コーラチェリー（なんとも形容し難い味で、不味い）や、コカ・コーラバニラ（コーラフロートのような味で、かなりバニラの風味が強かったが美味しかった）などがあった。コカ・コーラ社の工場見学をさせていただいたにもかかわらず、研修終盤ではペプシコーラを飲むことが多かったが。

このようなことは実際に行ってみないと知ることはなかったと思うし、新しいことを知るのは学習意欲の向上にも繋がると考えているので、この研修を通して様々なことを知ることができてよかった。再び海外で言語やその地の文化を学びたいと思った。

「スキー・スノーボード講習」に参加して（中学１年）

中学1年　藤原 圭太

私は、冬休みの１２月２６日から２９日の４日間、長野県にある北志賀高原の小丸山スキー場で行われたスキー・スノーボード講習に参加しました。雪は少なめでしたが、初日の夜と２日目に雪が降ってくれたおかげで、４日間とも滑ることができました。

私は、スキーの初級班に参加しました。今までスキーに行ったことはありましたが、久しぶりだったので、リフトから降りるときに転びそうになりました。そのようなこともあり下までしっかり滑れるか、不安になりました。最初は途中で何回か転んでしまいましたが、それは最初だけで、講習を終える頃にはもっと滑っていたいと思うようになりました。特に私が成長したと思えることは、２日目のナイター練習のとき、午前中や午後にはできなかったことができるようになったことです。それは、インストラクターの方の指導を受けたことはもちろんですが、上手な人の滑り方を見て自分なりに練習したことも大きかったと思います。教えられたことばかりではなく、それを自己流にアレンジして練習することも日常生活で試してみたいと思いました。

また、この講習で、日常でも忘れ物をしないことの大切さをあらためて実感しました。私は講習の中で一度だけゼッケンを忘れてしまったのですが、もう靴を履いていたため靴を脱がなければならず、時間がかかってしまいました。自分の練習時間が短くなっただけでなく、仲間の練習時間も短くなり、本当に申し訳なく思いました。周りのためにも自分のためにも、忘れ物をしてはいけないと考えさせられました。

今回のスキー・スノーボード講習では、スキーの楽しさや部屋での友人とのコミュニケーションを満喫することができ、とても充実した４日間でした。今回の講習で学んだことを今後の学校生活でも活かしていきたいと思います。

「生徒会活動」に参加して（高校２年）

高校2年　神原 一輝

令和元年度、高校生徒会長を務めました神原一輝です。本校のこの一年間の生徒会活動をご紹介します。生徒会の組織は、生徒会長をはじめとする役員十数名による「生徒会役員会」と、各クラスから選出された委員による「中央委員会・福祉委員会」、各クラブ部長による「クラブ部長会」から成り立っています。

今年度は生徒会役員会から各委員会に向けて議題を提示することを少なくし、各クラスやクラブから話し合ってほしい議題をできるだけ多く提案してもらうように心掛けました。生徒からの様々な意見をまとめて学校への「要望書」を作成しましたが、残念ながらその中には実現できなかったものもいくつかあります。しかし、私が公約として掲げたもので、文化祭でのスポーツ大会の実施については高校２年生という制限付きではありましたが実現できましたし、前年度からの案件である黒カバンの改良や、生徒会と食堂のコラボレーションによる食事メニューの多様化、生徒会広報誌の内容の充実など、様々なことも達成しました。生徒会長になると人前で話す機会も増えます。生徒会長選挙の演説に始まり、各学期の始業式・終業式や生徒総会での報告、９０周年記念行事での生徒代表挨拶など、話をする経験が増えるごとに自分の緊張も和らいでいき、度胸もついたと思います。また、先生方に提出する各書類や自分が話す言葉を考えながら原稿を書いていくうちに、言葉の言い回しなども学びました。様々な生徒会活動は私自身を大きく成長させてくれる機会を与えてくれた、と実感しています。本校の生徒会にぜひ目を向けて、後輩の皆さんも生徒会を運営してみませんか。

桜山祭文化の部

保護者からのメッセージ

入学したての頃はブカブカの制服で通勤ラッシュの電車に乗り、頼りない印象だった息子でしたが、今ではすっかり学ラン姿が馴染み、ラッシュにも慣れたようで安心しています。毎日の学校の授業では先生方の教科書を掘り下げた話が面白いと、家庭でよく感想を聞かせてくれます。ただ定期テストの勉強などはついつい後回しにしてしまうようで、計画を立ててはみるものの実行には移せずそのまま寝てしまう…なんてことも多いようです。憧れていた明大中野中学。クラスの中にも切磋琢磨しながら頑張る良い雰囲気があるようです。友人の頑張りに刺激を受けながら、自身も目標を持ち続け頑張ってほしいです。多感な時期で関わり方が難しく感じることもありますが、努力している姿を認め、応援していることを伝えていこうと思います。親子共々どうぞ宜しくお願いいたします。

お友達や部活の先輩に恵まれ、先生方には温かく見守っていただき、息子は全力で楽しみ、挑戦をした明中生活１年目でした。学習面では、初めての中間テストで息子は衝撃を受け、以降毎回の定期テストでは緊張感を持って取り組んでいる様子です。週６日の部活動に参加したく、限られた時間で集中した家庭学習をするようにもなりました。楽な道を好む緩い考えの息子でしたが、色々な場面で自発的に取り組む姿に大きな成長を感じます。これも先生方の日々のご指導、温かい声掛けや励ましのおかげだと本当に感謝しております。謙虚に且つ感謝の気持ちを忘れずに、息子には明中生活を楽しんでもらいたいと思います。

「みんなで仲良く正直に真面目に精一杯努力しよう」、これが学園の合言葉です。難しい言葉ではありませんが、年頃の男子にとって、「仲良く」、「真面目に」友人と学校生活を送ることは、少しの気恥ずかしさがあるかもしれません。しかし、明大中野の生徒達はこの合言葉を体現し、のびのびと成長していると感じています。これは、男子校のメリットの一つと考えています。毎月の頭髪検査の賜物で、身なりの乱れた生徒を見かけることもなく、とにかく生徒達からは「実直」な印象を受けています。明大中野での６年間で、心身ともに逞しい人間に成長できると、安心して日々を見守っています。

第一志望校の明中に入学し、毎日楽しく通学しております。お友達や部活動のお陰で充実した日々を送っております。しかしながら、思春期を迎えた息子は家では学校のことやお友達のことなどの会話は乏しく、必要最低限の会話のみです。学習面でもかなり心配ではありますが、先生方の熱心なご指導と、息子の性格をよく見ていただき息子に合った心温まる対応のお陰で、どんなときでも学校に行くことだけは嫌がらずに行く息子を見送りながら、そこだけは偉いな！と褒めてあげたい気持ちになります。明中に入れて良かった、と思う瞬間です。思春期の難しい時期にこの明中で成長できることをありがたく感じ感謝しております。安心して先生方にお任せいたします。ここでの友人関係や経験が人生の宝物になるものと信じております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

明大中野にご縁をいただいてから早３年。わが子が自分の力で得た居場所で、どのように学校生活を送るのかを楽しみに見守ってまいりました。外部での活動よりも、部活動での活動を望んだわが子。日常生活と部活動が密接だからこそ起こる様々な問題が日々起こりましたが、学校全体が親と子の距離を近づけてくれているからこそ、親としても日々の生活や問題に間近に向き合うことができ、その機会を多く設けてくださる学校や先生方には感謝申し上げます。あっという間の３年間でしたが、本人が入学前に思い描いていた日々を過ごせたのではないかと思います。３年間、よく言えばのんびりと、言い方を変えればぼんやりと過ごしてきましたが、その時間の価値をよく考え、これからの力にしていってほしいと思っております。

中学３年間はあっという間に過ぎてしまいました。息子には挨拶だけはしっかり身につけてほしいと望んでおりましたが、男子校だけあって、身だしなみのチェックや言葉遣いをとてもしっかり教育していただきました。社会に出たらきっと役に立つことでしょう。大学付属校の特徴を活かし、長くつながっていける友人に出会え、穏やかで文武両道に頑張っている子が多いと感じています。親が参加できる行事も多く、学校生活や部活動生活も楽しませてもらっています。これから始まる高校生活も楽しみです。

はじめまして。親子共々１年間宜しくお願い致します。入学しまして約２週間、まだ慣れない電車通学と重いカバンにヘトヘトになりながら、帰宅後昼寝をしてしまうほど体力的にはまだまだのようですが、大好きな明大中野に通えることが嬉しいようです。小学生までは自分でなかなか起床できませんでしたが、中学入学と同時に一変し驚きました。友達もできてきたようで、毎日学校でのことを話してくれます。学級 PTA の資料も詳しく作っていただき、先生の熱意は十分に伝わってきました。今後がとても楽しみです。

やった！明中合格！家族で大喜びした。３年前の感動は今でも忘れられません。息子は、小４のときに初めて明中の学園祭を見学し、男子校ならではの活気にあふれ、優しく接してくださる先輩方、生徒皆が笑顔で挨拶してくださる様子に「絶対に僕も明中に入る！」と心に決めていたようでした。そして憧れの中学に入学し、現在あっという間に高校１年生になりました。その憧れは一度も裏切られることなく、毎日がとても充実しているようです。よい仲間にも恵まれ、学校が大好きで、在籍していた塾から「学校説明会で明中のことを案内してね」と言われると、とんでいき、明中のよいところを沢山話していたようです。勉強は少し苦手な息子ですが、先生方のサポートのおかげで部活や生徒会と、充実した学校生活を送っています。また、先生方には厳しいながらも常に子供達に寄り添い、ご指導いただき感謝しております。あのとき憧れた先輩方のように、毎日笑顔の息子を見ていると嬉しくなります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

中高一貫教育の学校に、高校からの入学となることへの不安もありましたが、親の心配をよそに入学後すぐに学校にも馴染み、楽しい高校生活を送っているようです。特に友人関係は良好なようで、互いを尊重し合えることで息子に積極性が生まれたように感じます。様々な方との関わり合いの中で世界が広がったことや自身を尊重してもらえたことで、他者を思いやる気持ちも増えたようです。多様性を認め、自分だけでなく他者の世界観も尊重できるようになったことは息子にとって大きな財産となることでしょう。巡り合えた環境に感謝し、残り二年と少しの高校生活を有意義に過ごしてもらいたいと考えています。

兄弟にてお世話になり、今年で８年目になります。現在長男は明治大学生、次男は高校３年生となり、私にとっても最後の明中生活になります。長男にて入学から卒業まで６年間を過ごしました。入学当初、親の声掛けは小言にしか聞こえていないのですが、先生方の言葉や先輩方の話はしっかり聞いています。「やる時はやる！」というメリハリが芽生え、高校進学、明治大学進学に大きく繋がりました。大学に進学してからも、明中生はコミュニケーション能力が長けており、幅広い交友関係を築いています。それは常に先生たちが子供たちに寄り添い、男子ならではの男気ある教育をしてくださったお陰です。今年度次男が高校生活最後の年を、勉学・部活動・友達との交流と目一杯楽しみ、もう一回り逞しくなった息子の姿を、卒業時に見られることを楽しみにしています。

中学受験のときに、息子はスポーツが強い学校に行きたい、親としてはスポーツだけで勉強を疎かにしてもらっては困る、両立させてくれる学校を希望。そして受験を気にすることなく最後まで部活を続けられる大学付属を、ということで明大中野を受験しました。中学生のときは勉強そっちのけの部活だけの毎日で、成績があまりに下がると担任の先生から「部活だけやっていればいい学校じゃない！」とお叱りを受けていました。部活顧問の先生は学期末には成績、夏・冬休みの最後には宿題がちゃんと終わっているか、必ずチェックしてくださっています。先生方のねばり強く細かいご指導のお陰で、高校生になってからは自分から勉強をするようになり、やっと両立していますと言えるようになりました。先生方、友人、保護者の皆様にも恵まれ、今、親子共に希望していた中学・高校時代を過ごしています。

６年前に第１志望だった明大中野にご縁を頂き、新しい学生服を着て、緊張しつつも少し誇らしそうな表情で入学式に向かった日の息子の顔を、今でもはっきりと思い出すことができます。息子はこの６年間で、心から信頼でき共に切磋琢磨できる友人に恵まれ、自ら努力して進むべき方向を見つけることができました。そして、大切な青春時代を明るく真っ直ぐに過ごせたのは、いつも子供たちの事を考え、時に厳しく時に全力で一緒に楽しんでくださり、導いてくださった先生方のお陰だと思います。この春に、思い出の沢山詰まった学生服を着て、笑顔で明大中野を卒業できる事に心から感謝しております。

桜の季節、歴史ある校門をくぐって参加した入学式から、早いもので６年が過ぎようとしています。息子の学生生活もいよいよ終わりに近づいてきました。卒業を目の前にして心に浮かぶのは、明大中野に入学して本当に良かったという大きな感謝の気持ちです。クラスや部活動を通して沢山の仲間ができたこと、教員のみなさまに優しく厳しく指導していただいたことは、間違いなく一生の宝になると思います。とりわけ、懇切丁寧な進学指導により、息子が進むべき道を見出すことができたことは、今後の人生にとって大きな意味を持つと思います。6年間本当に有難うございました。

卒業生からのメッセージ

高校時代に得たもの

2016年度卒業　笠井 智史（株式会社みずほフィナンシャルグループ）

小・中・高・大といった学生生活が終わり、振り返ってみたときに、高校時代に学んだ二つのことが今の私の根底にあるのではないかと思います。一つは目標設定の大切さ、もう一つはその目標に対してのアプローチを自分で考えるということです。

私は中学時代、部活動ではただ何となく練習に行くだけ、高校受験ではさぼってばかりで全力で向き合えない中途半端な生活を送っていました。明大中野高校への入学を機に「何事にも全力で向き合おう」と考え、付属高校からあえて大学受験をして進学することと、サッカー部での都大会出場を目標としました。文武両道を掲げるなかで双方ともに時間が足りないという問題はありましたが、部活動では「サッカーノート」を付けることで練習効率を上げ、勉強では解けなかった問題を分析し、弱点分野の徹底的な復習によって弱点を補充し、学習効率を高める工夫をしました。また、明大中野には自分とは異なることで高い目標を持って努力している友人が数多くいました。全国大会を目指して日々の部活に努力している人や、公認会計士の資格を得ようと簿記を勉強している人など、まわりの友人から刺激を受けました。付属高校という決して受験に対して強く力を入れているわけではないことや、当時のグラウンドがとても狭かったことなど環境面でのマイナス面を乗り越え、都大会出場、上智大学現役合格といったことを勝ち取ることができました。そして、こうした高校時代の経験を活かし、大学ではダンスを始め、初心者でしたが目標を持ち努力することで300人を超えるダンスサークルの副代表を任せてもらえるほど成長することができました。

学生生活が今年の3月で終わり、4月からは社会人生活が幕を開けます。私の今の目標は、みずほフィナンシャルグループで様々な企業の経営に携わり金融のプロとなるだけでなく、会社にとらわれない自分自身の価値を見いだすことです。今まで以上に厳しいことがあるかと思いますが、明大中野で学んだ不退転の気持ちで、これからも目標に向けて努力していきたいと思います。後輩の皆さんも、ぜひ明大中野で将来の夢に向けて一歩ずつ着実に進んでください。

就職活動を通して感じたこと

2016年度卒業　阿部 修太郎（株式会社日本食研）

私は高校から明大中野に入学し、充実した高校生活を過ごしました。私がいつか親となり息子を持った際には、息子に明大中野への入学を勧めたいと思っています。そして、後輩の皆さんにはやりたいことを見つけ、あるいは見つける努力をして大学に入学してほしいです。

私は内部推薦で明治大学農学部農芸化学科に進学し、日本食研に入社しました。高校生の頃から食品会社に勤めたいと考えていたわけではありませんが、何となく食に携わりたいと感じていました。そして農学部農芸化学科に進学して食品化学を深く学んでいくうちに、私のやりたいことと照らし合わせて日本食研を選び、無事に就職が決まったことで「形」となりました。

今思い返してみると、私がこの人生選択ができたのは、私の考え方の根底や人格を築いた明大中野の教育のおかげであると感じています。明大中野は二つの教育がしっかりしています。一つは勉学面で、もう一つは生活面です。前者は、内部推薦の私でも大学の講義をほぼ理解できたことから、高校でのカリキュラムがしっかりしていたことを実感しました。また、定期試験で「やればできる」といった姿勢が備わっていたため、大学でも自分の受けたい授業を臆することなく受講することができました。後者は、規律正しい生活指導をはじめとした面倒見のよい先生方が多く、普段から真面目な姿勢を築くことができたためです。就職活動で感じましたが、真面目であるというのはとても大切なことです。良い形で就職活動を終えることができたのも、明大中野のおかげであると思っています。

このように、卒業後でも明大中野で得たものは私の人生で役立っています。在校生（または受験生）の皆さんには、自分のやりたいことを見つけ、その信じた道を突き進んでほしいと思います。明大中野で過ごした日々の学びがきっとどこかで役に立ってくるはずです。

中学・高校6年間を振り返って

2015年度卒業　内山 理夫（明治大学法学部）

「何で明大中野に入ったの？」高校1年生のとき、周りにいた友達に何気なく聞いたことがあります。第一志望だったからという人もいれば、合格したところが明大中野しかなかったという人。ただ、両親や塾の先生の勧めで入った人もいました。

ここで、私なりに明大中野の良いところをいくつか紹介したいと思います。まずは、明治大学の付属校であること。当たり前のことを言っているように思えますが、6年間通ってみて感じたことがあります。それは「自分」を磨けることです。スポーツを一生懸命に頑張ったり、何か資格を取得するために勉強したりと、一般受験とは異なり推薦で明治大学に進学できるので、学校の勉強以外にも何か1つのことに夢中になり、打ち込めます。ここで得た経験は大学に行っても活かされると思いました。

次に、校則がしっかりしていること。月に1回の頭髪検査や10分前行動など、服装や生活態度にはとても厳しいと感じるかもしれません。しかし、慣れると厳しいとは感じなくなります。むしろ髪を長く伸ばしたり、服装が乱れている人を校外で見るとだらしないと感じるようになりました。

最後に、男子校であることです。女子生徒がいないや汗臭いなどマイナスのイメージがあると思いますが、それは全く違います。友達もできやすく、男子校独特の雰囲気でアットホームな感じがあります。また体育祭のようにクラス対抗の行事では、男同士の絆が強く表れ、楽しかった思い出しかありません。

そんな明大中野を6年間過ごしたからこそ言えるアドバイスが2つあります。1つは勉強についてです。部活動などで忙しいとあまり勉強時間が取れず、帰宅してもすぐに寝てしまいます。よく予習・復習が大事だと言われますが、多分予習をこなす時間は無いと思います。復習は休み時間や通学時間などを上手く活用することをお薦めします。そして一番大事なことは日々の授業です。特に部活動で忙しい人はしっかりと授業に参加し、頑張るべきだと思いました。

そして、もう1つは、何か情熱を持って3年間・6年間できることを見つけることです。先ほども述べましたが、明大中野にはそういったことを見つけられる環境が整っています。私の場合はラグビーでした。私は小学校3年生のときからラグビーを始めラグビーが大好きでした。あるとき、テレビで明治大学ラグビー部の試合を見ていて、紫紺のジャージを着て走っている選手達をかっこいいと思い、いつか明治大学に入学して紫紺のジャージを着て試合に出たいと思い明大中野中学校に入学しました。期待を胸にラグビー部に入りましたが、入ってみるとあまり部員が集まらず私の学年は7人のみの入部でした。試合に出ても負けが多く、思っていたのと大きく違いました。それでもひたむきに頑張り、中学3年生のときには中学のキャプテンになりましたが、あまり上手くいかず試合も良い結果を得られず悔いの残ったまま中学の3年間を終えました。明大中野高校への内部進学が決まっていましたが、高校入学まで少し時間があったので今後の私のラグビーについて考えていると、ふとラグビーの本場であるニュージーランドでプレーしたいと思いました。そして不安を感じる間もなく、私の直感を信じてニュージーランドへラグビー留学しました。最初は言葉も通じず不安でしたが、ラグビーをすることに関しては世界共通なんだと感じ、段々とコミュニケーションもできるようになりました。ひとりで生活してとても新鮮で刺激的な毎日でした。中学のときはラグビーに対してマイナスになっていた気持ちがありましたが、この留学のお陰でそんな気持ちも晴れ楽しくできました。

そして、充実した1年間を経て明大中野高校に復学し、改めてラグビー部に入部しました。高校では部員が1学年20人以上いました。また、中学とは比べものにならない厳しい練習もほぼ毎日ありました。でも、辞めようとは全く思いませんでした。なぜなら毎日が充実して過ごせたからです。

そして、海外での経験も活かし、高校でもキャプテンになりました。高校最後の試合となった東京都大会決勝では惜しくも敗れ、準優勝となりあと一歩で目標の花園出場は果たせず、とても悔しい思いをしました。しかし、そこで大切なものが1つできました。それは仲間です。生活の中心がラグビーで家族より長く一緒にいた仲間は、私にとって第2の家族であり、一生の友達です。サポートしてくれた仲間や応援してくれた友人、学校の先生、そして見守ってくれた家族にはとても感謝しています。ラグビーに打ち込んでいる間は、周りに感謝という気持ちは芽生えませんでしたが、最後の試合が終わり落ち着いた今になって、色々な人に助けてもらったこと、迷惑を掛けていたことを思い出し、本当の意味で感謝という気持ちが分かりました。よく周りから「感謝しろ」と言われますが、感謝とは自分自身で気付くものだと思います。明大中野ではそういったことを長い時間をかけて教えてくれます。色々な理由で明大中野に入学した人たちが、高校3年生となり卒業間近となった今、全員が「明大中野で良かった」、「男子校最高」と言っています。もし、明大中野に入学したら、何か情熱を持って過ごせるものを見つけて思いっきり学校生活を満喫して欲しいと思います。

自分の人生に責任を持つ

2013年度卒業　加藤 嵩章（明治大学経営学部）

今、大学生活を振り返ったときに、自分自身の考え方の礎が、明大中野で過ごした6年間に集約されていると、強く実感します。

私は、公認会計士試験に合格することを目標にして、明治大学に入学しました。目指したきっかけは大層なものではなく、中学3年生の時に、大学のパンフレットに載っていた「公認会計士」という単語が、自分の胸に響いたことが始まりでした。

高校1年の夏休みには、会計士を目指すにあたって必要な「簿記3級」の資格を取りにいき、2年の6月に2級を取得しました。当時サッカー部だった私は、その頃、漠然と会計士になることを考えており、高校生活は基本的に部活動に捧げようと決めていたので、世代交代を機に、会計士や簿記とは一時離れました。本格的に会計士を志したのは高校3年の12月、サッカー部で仲の良かった友人が大学に入るにあたって何をするか明確に決め、走り出している姿を見て、「自分も負けていられない」と感じ、講座に申し込みました。

大学に入学し、クラスメートやサークルの友人が多くできました。ほとんどの人が入学当初に強い志を持っていました。「留学して語学力を身につける」、「アルバイトをしてお金を貯めて世界一周をする」、「公認会計士を目指す」、それらの言葉を口にした多くの友人達は、目標をいつの間にか変更し、気付いたときには何もせずに大学生活を終えようとしています。大学に入学すると誰もがこう言われます。「君たちの人生は無限に広がっている」。私もそう思いますし、本当のことだと思います。ただ、その無限の選択肢の中から自分だけの選択肢を見つけて実行し、目標を達成できる人はほとんどいません。何故そうなってしまうのでしょうか。おそらく、行動力の問題だと思います。

私が入学した明治大学経営学部では、講義中によく「中長期意思決定」という単語が出てきます。「長期意思決定」は簡単に言えば、「10年後、20年後の目標を見据えた意思の決定」、「中期意思決定」は、「長期意思決定を踏まえて1年～3年後の意思の決定」を指します。私の中では、「公認会計士になって世界中を羽ばたける人間になる」という目標が長期意思決定、「大学在学中に公認会計士試験に合格する」という目標が中期意思決定にあたります。会計士試験に合格した今となっては、また別の長期目標がありますが…。

ここで言えることは、目先の目標だけの短期意思決定しかしない人は、大学生活をうまく過ごせていないということです。10年、20年先の自分を見据えて、1～3年先の自分の行動を決めなければ、なんとなく作った目標は崩れ去ります。「10年先の自分なんてわからない」と思うかもしれません。それでもいいのです。現段階で「10年先のなりたい自分」を決め、それに向けてすべきことは何なのかを考えることが大切です。前述しましたが、私自身、高校生の頃に立てた10年先の目標は今変化しています。ただし、変化しているだけで目標がなくなったわけではありません。

また、目標を決めたら、もう一つ、大切なことがあります。それは、「その目標に責任を持つこと」です。目標を決めて走り出すのはあくまで自分です。何を志すとしても自分の行動次第では上手くいかないことがあります。その時、目標を貫くか諦めるかも自分次第です。人生100％うまくいく人間はいませんし、私自身、躓いた経験は山ほどあります。誰かのせいにせず、自分で自分の人生に責任を持ちましょう。最後になりますが、高校サッカー部の顧問の先生が、私が中学1年生の頃、卒業生に向けて贈ったメッセージのことを記述します。大学には頭髪検査も持ち物検査もありません。お酒も煙草も好きにしていいですし、授業を勝手に休んでも怒られません。明大中野で過ごした6年間は規則に縛られた苦しいものでしょうか。では、大学に入れば自由になるのでしょうか。当時、中学1年生の自分に最も響いた言葉は「本当の自由とは何なのか、考えてみて下さい」。

※各学年の行事の内容や日程は、年度により変更することがあります。

2020年度版　学園生活
2020年5月1日　発行
編　集　入試広報委員会
発行者　明治大学付属中野中学・高等学校